



1月15日、第34回市駅伝競走大会が開催され、145チーム755人の選手たちに、熱い声援が送られました。市民スポーツセンターにて。

市内各所に本市をアピールできる案内板の設置を望む

改革フォーラム 安藤多恵子

問 綾瀬市役所には、遠くからでも目立つ看板がない。市役所南東の角地には、商業施設ができ車や人の往来も多いが、他市の人には市役所とは分からない場合もある。シティーセールスの面から、市役所をアピールするような案内板を設置しないか。また、生涯学習課や商工振興課などが

答 現在、市役所入口信号の角と南側に銘板を入れたサインを設置しており、公園内に

に建つ庁舎として、視界を遮る工造物を造らないよう、現行の案内表示で対応していく。公園や遺跡には、必要な看板や案内板は設置しており、観光面での案内板として有効と考えている。また、近年、自然との触れ合いなどを目的とした観光が普及しており、体験的な要素を取り入れた観光に取り組むたいと考えている。観光振興に向けた検討委員会で、案内板なども含めて、コンセプトや観光計画を検討していく。



12月15日、年末交通事故防止運動街頭キャンペーンが実施され、買い物客に交通安全を呼び掛けました。綾瀬タウンヒルズにて。

コミュニティバスの運行は財政負担も考慮すべきでは

新政会 武藤 俊宏

問 現在、市では、コミュニティバスの社会実験運行を行っている。コミュニティバスは、全国的に赤字と言われる中、目的を持って運営していると思うが、利用状況や財政上の負担はどうなっているか。収支状況は大変重要だが、多くの市民は知らない。ホームページへの掲載やアンケートの実施など、本格運行に向けて市民が判断する機会

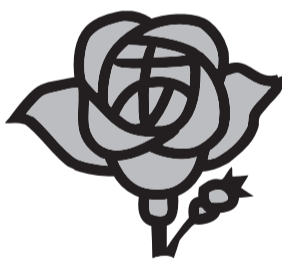
答 コミュニティバスの平成22年度運行実績は、利用者数が約17万2000人、運行経費が約1億2000万円、そのうち市費の負担額が約8000万円、負担率が78%である。市民とバス問題を共有し、コスト意識を明らかにするため、ホームページに毎月、運行委託費や運賃収入、利用者数などを掲載している。市民の交通利便性向上を検討するために設立した、バス交通のあり方検討市民会議の意見を聞きながら、利用者数や市費負担額などの実績を踏まえて総合的に検討し、25年度を目途に本格運行に移行したい。

問 CSR(企業の社会的責任)とは、企業は利益追求だけでなく、企業活動に関係を持つ全ての人に責任を果たしていこうという考え方である。全国で初めて釧路市が導入した自治体版CSRは、公的活動と私的活動に行動指針が別され、法令遵守の制度づくりや職員の社会貢献への

公明党 松澤 堅二

意識高揚策などが盛り込まれている。本市も、綾瀬版CSRを導入しては。また、地元密着の中小企業では、社会貢献活動が活発化している。活力ある地域創出を目指し、企業による地域貢献型CSRを推進するには、行政の取り組み強化が必要と考えるがどうか。

答 本市では従来から、公的活動では地方公務員法の遵守など、私的活動では自治会



市の花 ばら

綾瀬版CSRを導入し社会的責任を果たす取り組みを

民生委員の負担を減やさない見守りシステムの構築を

新政会 笠間 昇

問 高齢者保健福祉計画の基本理念である「安心と笑顔で過ごす自分らしい毎日を目指す」という観点から、高齢者の生活不安を減らすため、日々見守りしているのは民生委員である。今後も高齢化により民生委員の活動が一層増す中、これ以上負担を増やさないと、これ以上サポートが必要である。徳島県美馬市では、人が動いた時に反応するセンサー

やPTAなど地域活動への積極的な参加奨励など、さまざまな形で責任を果たす取り組みをしている。今後も、これらをもとに、職員の意識高揚に努めていきたい。また、市内企業では、地域の美化清掃など積極的な取り組みが展開されている。市では、取り組みを広く報あやせなどに掲載し、企業イメージ向上の側面的支援をするほか、報道機関への情報発信をしている。こうした情報報が、CSR促進の啓発につながっていると考えている。

答 民生委員には、日々福祉の増進に努めていただいているが、地域コミュニティが希薄化し、負担が増えていることは認識している。美馬市と同様のシステムは、光ファイバー通信網の整備が前提である。また、本市では、高齢者の安否確認は民生委員による見守りのほか、シニアあつたか相談員の訪問など、マンパワーを活用して対応していることから実施の予定はない。しかし、近隣市では本市と同じ通信環境で、簡易な見守りシステムを実施している事例がある。今後、機器を活用したシステムに関心を持って注視していきたい。